

1-7 第1分冊が非通俗的だったわけ

「…第1分冊では、たしかに叙述の仕方は非常に非通俗的でした。それは、一部は対象の抽象的な性質、私に指定された指数の制限、それに仕事の目的によるものでした。今度の部分は、もっと具体的な諸関係を取扱っているのです、もっとわかりやすいものです。ある科学に革命をおこそうという科学的な試みは、真に通俗的なものではありません。しかし、ひとたび科学的な基礎がおかれれば、通俗化は容易です。時代がいくらか荒れてくれば、また、これらの対象の通俗的叙述が要求するような筆調も選べます。…」

③-[330]P407(クーゲルマンあてのマルクスの手紙 1862. 12. 28)